

第 39 回 100 年史誌部会 議事録

日時: 2009 年 7 月 22 日(水) 16 時 10 分～17 時 20 分

場所: 管理棟 2 階 第一応接室

出席者: 横山孝男部会長、栗野宏、松田則男、小山明夫、新関久一、神戸士郎、小池邦博、高畑保之、結城敏夫各委員、小室秀一編集局員、斎藤ひろみ編集補助員、細谷朋宏氏((株)ぎょうせい)、村田氏((株)ぎょうせい)、小関栄助氏

欠席者: 大町竜哉、奥山澄夫、片山維子氏、山崎洋一郎各委員

【配布資料】

- [資料 39-1] **Journal 掲載研究事例等まとめ** [4 ページ/2 枚]
- [資料 39-2] 「百人の声」原稿依頼状況 2009 年 7 月 22 日現在 [2 ページ/1 枚]
- [資料 39-3] 『百人の声』「人材育成」鈴木 わか奈
- [資料 39-4] 『百人の声』「もの作りと工業高校」梶谷 正之
- [資料 39-5] 『百人の声』「工学部と交流を!」長谷部 利信
- [資料 39-6] 『百人の声』「研究者の氷河期」加藤 淳
- [資料 39-7] 『百人の声』「 」多田 和弘
- [資料 39-8] 『百人の声』「身近な先輩」多田 和弘 三五行縮小版
- [資料 39-9] 『百人の声』「大学生活と米沢の風習」山田 博信
- [資料 39-10] 『百人の声』「Made in YONEZAWA」碓 智文
- [資料 39-11] 『百人の声』「ユビキタス社会」牧田 和政
- [資料 39-12] 『百人の声』「創生に向けて」川江 健
- [資料 39-13] 山大工学部 100 周年記念ジャーナル台割表(21.7.17)
- [資料 39-14] 部局史進捗状況一覧 (2009.7.22)
- [資料 39-15] 「グラウンドと体育館」にまつわるエピソードと教授会資料 横山孝男

会議に先立ち、結城敏夫委員ならびに小関栄助氏(K48 修)の紹介ならびに挨拶があった。

I) 報告事項

1. 斎藤編集補助員から百年史誌部会 web site に関して報告があった。
 - ・ 今月の話題を横山部会長の原稿を掲載した。
 - ・ 会員専用サイトに、平成元年からの年表、公開講座一覧、各系の略沿革表を掲載した。
 - ・ 第 38 回百年史誌部会議事録を公開した。

II) 協議事項

1. 100 周年記念誌

- (1) 松田 J 班長から資料 39-1 に基づき記念誌掲載の具体的事例に関して説明があった。
 - ① 特集 2 の 2 「理系ガールズ」のタイトルを横山部会長からの提案による「輝く女性」に仮変更する。
 - ② 記念誌掲載の重要テーマ例えば、最先端ラボラトリーや産官学連携研究の選定は工学部長に依頼する。産官学連携研究の機能高分子関連の候補 4 件(小山研、石川研、井上研、成沢研)についてはプラスチック成形加工とレオロジーに関する研究として 1 編に纏めることとする。
 - ③ (株)ぎょうせい・村田氏から取材の日程に関する説明があった。カメラマンのスケジュー

ール調整の関係上、取材対象を早めにオーソライズし、決定していただきたい旨要請があった。取材の作業工程として最先端ラボラトリーの四つの研究室は1研究室あたり2時間ほどかかるので、スケジュール調整が可能なら1日で研究室の取材を行なう。また特集1[[象限 B]アルカディア・デッサンの取材を1日かけて行いたい。従って、2泊3日の予定で取材を行いたいとした。

- ④ 横山部会長から最先端ラボラトリーの7研究室の候補から5研究室の選定をなるべく早く進めるが、学部長の大筋の意見で選定に残る可能性の高い研究室を最初に取材していただく可能性などの提案があった。村田氏から早期の日程決定と取材前の各研究室に関する基礎資料の準備に関する依頼があった。
- ⑤ 7月23日の午後1時に学部長と横山部会長、松田J班長、小池委員が面談し、取材対象を決定する。

(2) 記念誌『百人の声』に関して松田J班長から資料39-2に基づき説明があった。また、新たな寄稿文を資料39-3から資料39-12に示す。

- ・ 神戸委員から資料39-2に記載されていないが、多田和弘氏(資料39-7,8)、山田博信氏(資料39-9)、碓智文氏(資料30-10)、牧田和政氏(資料39-11)、川江健氏(資料39-12)の5件の寄稿があったことの報告があった。
- ・ 栗野委員から鈴木わか奈氏(資料39-3)、加藤淳氏(資料39-6)に関する説明があった。
- ・ 松田J班長から梶谷正之氏(資料39-4)、長谷部利信氏(資料39-5)に関する説明があった。
- ・ 工業会の執筆依頼の人选が、学科や事務ユニットと重複する可能性があるため、神経を使いながら進めている旨、説明があった。
- ・ 現在、各委員に原稿のチェックを依頼している。
- ・ 小山委員から、情報科学科の加藤正治先生が執筆を辞退した旨、報告があった。
- ・ 資料39-2では事務ユニットの執筆候補者欄が空白であるが、現在候補者が上がっており、執筆依頼を行う旨、報告があった。

(3) 記念誌の進捗状況に関して、(株)ぎょうせい・細谷氏から説明があった。

- ・ 特集1[[象限 B]アルカディア・デッサンの取材はイザベラ・バードが歩いた同じ時期に取材を行いたい。バードは梅雨が空けた晴天の時、夏の日ざしの中を歩いた。
- ・ 記念誌のコンテンツで学部長に関する記事についての質問があり、巻頭対談として掲載する旨回答があった(参考:資料39-13、台割2~7ページの【巻頭対談】イノベーションを育む風土)。また、村田氏から以下の説明があった。本記念誌が見せる誌面企画であることを考慮し、関係者の挨拶文が入るところに対談を企画した。あらかじめ、企画書や想定問答集を大場工学部長や結城工業会理事長に渡し、レジュメを見ていただくことで、話の展開をあらかじめ知らせ、その上で対談をしていたこうと考えている。イノベーションを育む風土というテーマは企画書で触れて提示しておく。日程として8月下旬~9月上旬を想定している。
- ・ 7月27日からの取材の合間に学部長ならびに結城理事長と挨拶し、趣旨説明、アポをとりたいたとした。
- ・ 最先端ラボラトリーは基本は1研究室2ページであるが、最初の研究室のみリードに0.5ページを使う。従って最初の研究室は1.5ページか3.5ページになる。現在は3.5ページとすることを考えている。ページの調整は百年の年代記で行う(参考:資料39-13、台割)。

2. 100年史

(1) 米沢工業高等学校初代校長 大竹多気

- ① 小関栄助氏より、米沢工業高等学校初代校長大竹多気先生の調査に関する話題提供があった。概略は米沢工業誌を見ていただきたい。
- ② 孫にあたる大竹俊樹さんにインタビューを行ない、資料をお借りしてきた。
- ③ 大竹みどりというペンネームで執筆活動を行っていたことがわかり、資料の収集を進めている。明治大学の図書館には大竹多気著の書籍が8冊、大竹みどり著の書籍が1冊収蔵されている。また、M14年 東洋学芸雑誌に新体詩歌に関する投稿がある。文学史を説明する上でかかせない古典文学の基礎をなす論文である。

(2) 部局史の進捗状況

- ① 栗野委員から資料 39-14 に基づき報告があった。

(3) 通史の進捗状況

- ① 小室編集局員から資料で困っていることがあったら調査をするので、申し出て欲しい旨、説明があった。
- ② 第11章執筆担当の米竹孝一郎教員は忙しい状況にあるので、米竹孝一郎教員に状況を確認いただきたい。資料については編集局がサポートする。
- ③ 全体的には遅れ気味である。渡辺克巳先生は第9章「工学研究科及び理工学研究科の発足」の執筆を終え、第7章の執筆に入っている。
- ④ 教授会資料や代表者委員会の資料の中身を精査しているが、話の筋を通すのが困難な状況である。資料を収集し、再構成することが大切であると考えている。

(4) 今月の話題

- ① 横山部会長から資料 39-15 に基づき今月の話題の紹介があった。

III) その他

- ・ 次回の会議は 8月26日(水) 16時10分から旧本館二階会議室にて行う。

2009年8月26日